

相双「食」と「ふるさと」新生運動ニュース

No.5 2015年3月
福島県相双農林事務所

メニュー

- ◆山火事防止パレードを実施しました
- ◆『農業をあきらめない!』避難先での営農再開
- ◆北海道海岸で植樹式を開催しました
- ◆ありがとう 派遣職員 ほか

山火事防止パレードを実施しました（森林林業部）

相双地区では山火事防止強調期間に合わせ、平成27年2月24日（火）、東日本大震災の影響などにより中断していた山火事防止パレードを6年ぶりに再開し、春季の乾燥期における林野火災発生の予防について地域住民への広報活動を行いました。

川内村で出発式が行われ、相双地区山火事防止連絡協議会長（相双農林事務所長）からは、「山火事による放射性物質の再拡散や消防隊員の被曝を未然に防ぐことが以前にも増して重要。」、遠藤川内村長からは、「かつては当たり前に行われていたパレードが再開できてうれしい。村内は9割近くが森林で、貴重な財産、資源を火災から守り、後世に伝えることが責務。」との挨拶がありました。

山火事防止パレードには、秋元川内村消防団長の号令で出発しました。消防車等延べ21台、総人数約50名の参加がありました。午後には、広野町と楡葉町でパレードを行いました。



遠藤川内村長挨拶



パレードの様子



『農業をあきらめない!』避難先での営農再開（農業振興普及部）

農業振興普及部では、震災以降、避難農業者を対象としたカウンセリングを実施し、農業者に寄り添いながら、農作物の栽培技術支援や補助事業活用支援などを実施してきました。

三浦草平さんは、震災前南相馬市小高区で父、母と営農していましたが、東日本大震災に伴う津波被害と原子力災害で避難を余儀なくされました。それでも、「福島での農業をあきらめたくない」という思いから、南相馬市から北へ約30km離れた新地町で営農を再開することを決断し、復興交付金等を活用して営農環境を整えました。現在は、水稻を中心として、ジャガイモ、辛味ダイコン、枝豆など、少量多品目の野菜を主に直売所へ販売しています。

三浦さんは「農業は農作物を生産するだけでなく、農地やその周辺環境を維持する役割もあります。私は、この土地の人間が何かを継続していくことに意義があると思っています。」と力強く語ってくれました。



震災後、初めての田植え



ハウレンソウの播種作業



事務所での三浦さん

北海道で植樹式を開催しました（森林林業部）

東日本大震災から4年を迎えようとする3月7日、南相馬市鹿島区の北海道で県営海岸防災林復興祈念植樹式を開催しました。植樹式は、海岸防災林造成事業において本格的に植栽がスタートするのに合わせて、地域の方々の御協力と全国からの支援に感謝の意を表するとともに、早期復興を祈念して実施したものです。

植樹式には、地元行政区の皆様をはじめ、八沢小学校の児童、相馬地方林業協会の会員、各県からの派遣職員など約190名が参加し、茨城県、栃木県、神奈川県、石川県、滋賀県、山口県、愛媛県から提供を受けた種子から育てたマツ苗700本を植栽しました。

八沢小学校の児童29名も、マツが大きく育つことを祈りながら、1本1本丁寧に植栽していました。

(フェイスブック <https://www.facebook.com/FutureFromFukushima>)



植樹する八沢小学校の児童



植樹を終えた参加者

ありがとう 派遣職員（森林林業部）

現在、相双農林事務所には、全国から派遣された36名の職員が在籍しています。そのうち、11名が森林林業部に所属し、9名は主に海岸防災林造成事業を、2名は用地業務を担当しています。

短期派遣の方を含めると、平成24年度は8県から14名、平成25年度は8県から12名、平成26年度は9県から14名の職員を派遣いただいています。なお、平成26年度は、京都府と高知県からの派遣職員が2年目となっています。

派遣職員のがんばりにより、海岸防災林も植栽を行うことができるまで推進することができました。

派遣職員は、3月末には、派遣元に帰ることになりますが、高知県から派遣の山内主査は、「2年間やりがいがあった。復興が進んだ相双地区にまた来てみたい。いつまでも福島を応援しています。」と振り返っています。



飯沼森林林業部長と派遣職員



執務室に掲げられている派遣職員の名札

農業農村整備事業復興パネル展を開催しました（農村整備部）

当事務所では、全国から派遣支援を頂きながら農地・農業用施設や海岸保全施設などの早期の復旧・復興に向け取り組んでおります。東日本大震災から4年目を迎えようとする、2月13日から23日までの11日間、「道の駅南相馬」のギャラリーにて、農業農村事業復興パネル展を開催いたしました。

会場には多くの方々に足を運んで頂き、「こんなに進んでいたんだ」との驚きの声もあり、震災当時の状況を記憶に留めて頂くとともに、現在の復旧・復興に向けた取組状況を多くの方々に認識頂けたものと思います。

また、今回パネル展をご覧になった、「いちばん星プロジェクト」さんからの申し入れにより、千葉県で音楽ボランティア活動をしている「For-Rest」さんの福島復興支援コンサート会場でも、パネルを展示して頂くこととなり、広く県外の方々にも本県農業農村の復旧・復興の状況をお伝えすることができました。

今後も、更なる復旧・復興の加速化に向け事務所一丸となって取り組んで参ります。



パネル展示の様子



6次化商品試食求票会を開催しました（企画部）

相双地域では、常磐自動車道の全線開通や鹿島の物販・観光施設「セテッてかしま」の開所など、地域産業6次化による特産品の開発を進める上で絶好の機会にあります。そこで、管内の事業者が開発した6次化商品のブラッシュアップのため、試食・求票（アンケート）を実施しました。5事業者が5種類の6次化商品を提供し、参加者は各商品の説明を受けながら試食を行い、味や食感、形状などを確かめ、アンケート用紙に感想などを記入しました。

また、「売れる商品づくり」のポイントや具体的な商品事例などについて、専門家による講演会も開催しました。今後の商品開発や改良に役立つものと期待されます。

（平成27年3月4日、道の駅南相馬 ホール(南相馬市)にて開催）



会場の様子



講演会の様子



6次化の試食品一例



**ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動
 第2回意見交換会を開催（企画部）**

地方の動向を的確に把握しながら、関係者一丸となった取組を推進し、標記運動の効果的な展開を図るため意見交換会を開催しました。今回は、双葉郡の農林水産業関係者及び消費流通関係者6名に参加していただきました。

参加者からは、震災後各自が行ってきた取組や、日常生活のなかで感じたことや気付いたことなどの報告がありました。また、参加者からは以下の意見がありました。

○風評は何年たってもついてくると思うので、負けないで、地道に活動して行って、少しずつ販路を拡大していければと思っている。

○町で一番若い農家だが、自分の後についてきてくれる人が出てきてくれるかどうか心配だ。

○実際に作っておいしいものを発信し続ければ、今後どんどん伸びていくものだと思っている。

○お歳暮として、ある会社で日本各地にお米を届けていただき、食べていただいた。好評を得て、一昨年に続けて昨年もその会社でお歳暮として使っていただいた。等

頂いた意見は今後の取組に反映させ、より良い運動にして行きたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。



意見交換会の様子

（平成27年2月24日、福島県双葉農業普及所会議室（広野町）にて開催）

ふくしま大交流フェア（企画部）

復興する元気な福島の姿を首都圏の方々にアピールする場として、また、首都圏に避難されている方々の交流場として、ふくしまの魅力を感じることができるイベント「ふくしま大交流フェア」が開催されました。相双管内からは、川内村、相馬双葉漁協女性部相馬支部、海鮮フーズ（相馬市）、(株)マツバヤ（浪江町）、飯舘村が出展し、日本酒や海産物などの販売を行いました。

喜多方ラーメンなどのご当地グルメの飲食ブースのほか、スパリゾートハワイアンズダンスチームによる特別公演もあり、多くの方々の参加がありました。おかげさまでほぼ完売することができました。また、あたたかい励ましの言葉をいただいたこと感謝申し上げます。



出展の様子

（平成27年1月12日、東京国際フォーラム（東京都千代田区）にて開催）

ふくしまから
はじめよう。
Future From Fukushima.

福島県相双農林事務所 企画部 地域農林企画課
 〒975-0031 福島県南相馬市原町区錦町一丁目30番地
 Tel : 0244-26-1153 Fax : 0244-26-1181
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36260a/>
 E-mail kikaku.af06@pref.fukushima.lg.jp